

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型サービスを反映した理念作りを行った。地域との関わり合いを重視し地域の一員として、その人らしい生活が出来る理念を作成し、掲示又は周知に努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を全職員に周知・共有化するために、ユニット内に掲示し、業務前のミーティング時に唱和している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・事業所内の見やすい場所に理念を掲示している。 又毎月の実施広報誌に理念を掲載して家族への理解に繋げている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・地域のイベントに参加し、介護相談コーナーなどを行い、地域交流を進めている。 ・見学や認知症に関する相談や実習生・ボランティア等を受入を実施している。又外部の人を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部評価の結果をもとに計画を立て、今後のケアサービスの提供へ繋げるようにしている。自己評価は管理者だけでなく職員も一緒に取り組んでいる。</li> </ul>	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議では、報告や情報交換を行っている。又メンバーの意見を今後の取り組みに繋げていくようにしている。外部消化や自己評価を公表している。</li> <li>二ヶ月おきに運営推進会議を実施している。</li> </ul>	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議では、市の担当者に参加していただき、指導をうけて結果を報告している。</li> </ul>	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修や内部研修において全職員が権利擁護事業や成年後見制度について、理解を深める取り組みを行っている。</li> </ul>	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待の早期発見や報告の流れなどに関する高齢者虐待防止マニュアルを作成し、更に勉強会を実施して全職員に周知徹底を行っている。又、管理者は職員のケア提供場면을観察するなど、虐待を未然に防ぐよう努めている。</li> </ul>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約を改訂する際には、利用者・家族へ十分に説明を行い同意を得ている。又退居の際は、不安を生じさせないように退居先の情報提供を行っている。</li> </ul>	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情処理担当が決められており、運営推進会議などで、意見をもらう機会がある。出された意見や苦情を今後のより良い事業所運営に活かして行くようにしている。</li> </ul>	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の健康状態・受診状況又は、金銭管理の状況については出納帳に記録し領収証を添付して、月一回報告を行っている。</li> <li>・毎月のお便りで職員の異動等を記載し公表している。</li> </ul>	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内に苦情受付窓口を掲示している。又、出された意見や苦情をケアに反映できるようにしている。</li> <li>・意見箱を設置している。</li> </ul>	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苑会議などで職員の意見を聞く機会を設け、ケアに反映できるように努めている。</li> </ul>	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の急な休み等には、代替りの職員を確保する体制が整えられている。又、経験のない職員の夜勤の場合は宿直などで二人体制を実施している。</li> </ul>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員の異動や配置換え等を行う際には、新しく担当する職員へ詳細に引き継ぎを行っている。</li> <li>・異動は最小限にして介護技術のレベルをできるだけ揃えるようにしている。</li> </ul>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修受講後は報告書を作成し報告会や伝達講習を行い内容を日々のケアに活かせるように全職員へ周知している。</li> </ul>		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸市のグループホーム協議会やネットワークに加入し、同業者との交流・連携の機会が確保されている。</li> <li>・交換研修等を行っている。</li> </ul>		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時間や休憩場所の確保はできている。</li> <li>・職員の悩みやストレスを聞くように気軽に話せる環境作りをしている。</li> </ul>		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりが向上心を持って仕事に取り組めるよう研修や勉強会を開催し、スキルアップを目指すなどやりがいのある職場環境となるように努めている。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・サービス利用の希望者は、本人と家族との面談を必ず行ない、面談記録を用いて、思い・不安・困っている事等を受け止めることに努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談時に希望等を確認し、対応できることについては、柔軟に実行・対応したり、対応できない時には、他のサービス等をお知らせしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者・家族の意思に沿ったサービス提供となるよう十分に話し合いを行い、調整している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するように努めている。利用者様の生活の知恵や経験 を基に指導してもらい野菜を作り成長や収穫を共に楽しんだり、八戸七夕祭りに作品を利用者様 と職員が共同で作成し奨励賞を受賞しました。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族との情報交換を通して、家族の意向をサービスに反映している。</li> <li>・イベント時には家族も参加している。</li> </ul>		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族との関係が途切れないように、日々の様子を面会時や電話・手紙などで伝えるようにしている。</li> </ul>		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望などに応じて利用者にとって馴染みの場所へ出掛けられるように家族の協力で支援している。</li> </ul>		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者同士の仲の良し悪しなど、利用者の人間関係を把握するとともに声掛けなどを行い、仲良く過ごせるように心掛けている。</li> </ul>		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて家族からの相談や問い合わせは丁寧に対応・支援できるように努めている。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の思いや希望・意思を把握するように努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者の生活歴などについては家族から情報収集し把握している。又個人ファイルを作成し全職員に把握しやすいようにしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・センター方式を用いて、利用者の一日の生活リズムを把握するように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画は利用者主体の個別で具体的なものとなっている。カンファレンスにより職員間での意見や気づきが反映されている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・実施期間・評価日を明示し見直しを行っている。 面会時、家族からの希望も取り入れ、さらに状態の変化があった際は、見直しやカンファレンスを行い、プランに反映させている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・一人ひとり、日々の暮らしの様子を具体的に記録し、介護計画に沿って実践できているか、記載し見直しに生かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・介護保険サービス（医療連携）や自主サービス（移送・外出支援）を組み合わせながら柔軟に対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・必要に応じて、ボランティアの受入や働きかけを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じて福祉用具の事業者と連携し、他のサービスを利用できるように支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・必要に応じて地域包括支援センターと連携出来るように努めて生きたい。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。訪問診察を利用することで急変時にも気軽に相談することができ、24時間医療のサポートを受けることができる。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力病院に神経内科の医師がいて、相談や助言を受けられる体制ができています。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・訪問看護との連携体制が整っており日常の健康管理や24時間いつでも気軽に相談できるようになっている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時には、協力病院の連携室と情報交換し家族の希望等を考慮しながら早期退院できるように努めている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・日常の健康管理や急変時の対応について利用者や家族・医療機関と話し合いを行い意思統一を図っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重症化に備えマニュアルを作成し、家族に経過や状態を医師、スタッフ、クリニック看護師の立会いで説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住み替えのダメージが最小限となるように利用者の状況・習慣・好み・ケア方法などについて、プライバシーに配慮し移行先へサマリー・情報提供を行っている。</li> </ul>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の意思を配慮した上で年長者と接する常識的かつ適切な呼びかけや声掛けを行っている。</li> <li>個人情報保護法については、概ね全職員が理解している。又、個人情報委員会が、主体となり、保管や利用者のプライバシーについて、指導や</li> </ul>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の力量に応じて、自己決定できるように場面や声掛けをしている。</li> </ul>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のペースや希望・身体・精神状況に合わせた支援を心掛けている。</li> </ul>	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の個性や希望を尊重し好みの衣服を選べるように支援している。又、衣類や整容の乱れはさりげなくサポートしている。</li> </ul>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理の準備や後片付けを促し職員と一緒にしている。 又可能な限り、利用者と一緒に席に着き食事を摂っている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者の状態に配慮しながら嗜好品を暮らしの中に取り入れている。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・一人ひとりの排泄パターンを記録・把握している。尿意・便意の確認時・誘導時・失禁時は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴を拒否する利用者に対しては、声掛けや対応を工夫しながら行っている。 ・入浴は、週2回と決め手いるが、汚染時、希望時は予定外で入浴していただいている		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・必要に応じて家族や医療機関と相談しながら、眠剤の服用を調整している。 ・足浴や飲み物を工夫するなどしている ・話を傾聴する等安心できるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・心身の状態に合わせ無理のない範囲で庭作り、畑作り、買い物、散歩、手芸役割などを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者の力量や希望・家族の希望に配慮しながら金銭管理を行えるように支援している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者の楽しみや気分転換に繋がるように、日常的に外出できる機会を作って実施している。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・声掛けや働きかけにより、イベントや外出の機会を作っている。 ・外食の企画をし、家族にも参加してもらい外出支援している。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者が電話をかけたりする場合には電話番号を押す等の介助をして、気軽に電話をかけられるようになっている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族等の訪問時・面会時には、声掛けや挨拶することで、過ごしやすい雰囲気作りを心掛けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・安全第一を心掛けているが、やむを得ず、身体拘束を行わなければならない場合は、家族等に説明を行い同意を得ている。 又、必要最小限にするようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・鍵をかけない取り組みをしているが、安全第一を考慮しやむを得ず利用者状態、スタッフの状況により施錠する事もある。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・昼夜共に、職員は利用者を見守り易い場所に居て利用者の様子を把握している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意の必要な物品は、利用者の手の届かない、且つ目に付かない保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・インシデント、アクシデント報告書の様式が整備されており、発生後は再発防止のためシエル分析を行い、十分に話し合い再発の防止に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・夜間の対応を含めて、緊急時対応マニュアルが作成されている。 ・AEDの講習を全職員行っている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害時に備え数日分の食料・飲料水及び寒さをしのげる物品を用意している。又、消防署の指導を受けながら昼夜を想定した避難訓練を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・個々の状態に起こり得るリスクを把握し、その対応策を家族等に説明している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・常に顔色や様子に注意を払い変化や異変の兆候が あった場合には、記録に詳しく残すとともに、職員で共有し必要に応じて速やかに医療機関に相談・対応している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の飲み忘れや誤薬が無いよう見守りや介助支援している。又、薬の変更時には、申し送り等で全職員に周知している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘の原因を探るとともに、及ぼす影響を理解し、食事や活動を声掛けすることによって自然排便を促す工夫をしている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後に口腔内の洗浄や義歯の手入れなどを支援している。又、一人ひとりの能力に応じた支援、声掛けや一緒に行くなどを実施している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスに配慮した献立となっている水分摂取量を記録し把握している。管理栄養士等の専門家からの指導、助言をえられる体制となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の予防・早期発見のため対応マニュアルが作成されている。</li> <li>・感染症の最新の情報を収集し勉強会をしている。</li> </ul>		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔を保持するための具体的なマニュアルが作成されている。</li> <li>・台所や調理用具は毎日消毒を行っている。</li> </ul>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りの作品等を展示し、親しみやすく、安心して出入りができるように心掛けている。</li> </ul>		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソファやテレビ・新聞・マッサージチェアを設置し又、歌や体操を行えるようなスペース・場所を確保している。</li> <li>・季節の切花や鉢物を食卓や目のつく場所に飾っている。</li> </ul>		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者同士で団欒できるスペース、ソファやイスが確保されており自由に使用することができる。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居前から使用していた馴染みの物を持って 来てもらえるように家族へ積極的に働きかけ を行っている。</li> <li>写真を貼るなどしている。</li> </ul>		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者に合わせた温度・湿度調節 を行うよう配慮している。</li> </ul>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全を考慮し要所には手すりを設置している。 又、活動性を維持するため必要に応じて 車椅子等を用意している。及び建物は バリアフリーになっている。</li> </ul>		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所間違いを防ぐために個々の居室に表札を つけて目印にしている。</li> </ul>		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベランダがあり、雨天時も気分転換に散歩を 行える。又花壇や畑があり、季節の花や作物を 楽しむことができるように敷地内を活用 している。</li> </ul>		



( 部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域に密着した取り組みとして、ボランティアの活用や地域のイベント等に参加している。地域のゴミ拾いなどに参加したり、利用者と一緒に散歩しながら公園のゴミ拾いなどを行い地域交流に努めている。
- ・業務優先にならず、利用者主体を心掛けている。又、利用者の希望に出来るだけ沿えるよう支援している。
- ・日常の様子等、家族へ電話連絡や毎月一回の実施及び予定表を作成して利用者の状態を伝えている。
- ・敷地内には、畑や花壇があり季節の野菜や花が楽しめる環境が整っている。